

[講演要旨]

いさぼうネット「歴史的な大規模土砂災害地点を歩く」から 地震による大規模土砂災害事例の紹介

井上 公夫*(砂防フロンティア整備推進機構)

§1. はじめに

私は2015年4月より、土木情報サービス「いさぼうネット」で、『歴史的な大規模土砂災害地点を歩く』というシリーズコラムを連載している。本コラムでは発生年月日と発生場所(1/2.5万地形図)が特定できた土砂災害事例を紹介している。コラム1-30までを丸源書店より2018年の6月に発刊し、コラム31-50までを2019年8月に発刊した。コラム65まで執筆予定で、地震関連災害の事例を紹介する。

§2. シリーズコラムの概要

コラム65までの内訳は以下のようになっている。

- 地震関連災害 26 事例
- 降雨災害 28 事例(震後降雨災害あり)
- 噴火関連災害 6 事例
- その他 5 事例
- (天然ダム災害 31 事例)
- (火山地域災害 17 事例)

以下に、地震関連災害のコラムのタイトルを示す。

- コラム3:五畿七道地震(887):八ヶ岳岩屑なだれ
- コラム4:近江・若狭地震(1662):町居崩れ
- コラム7:島原四月朔地震(1792):島原大変肥後迷惑
- コラム8・9:高田地震(1751):名立崩れと追立山崩壊
- コラム12-14:宝永地震(1707):高知県仁淀川等
- コラム15:越佐地震(1502):姫川・真那板山
- コラム16:信州小谷地震(1714):姫川・岩戸山
- コラム20・21:善光寺地震(1874):岩倉山天然ダム等
- コラム22・23:飛越地震(1858):鳶崩れ等
- コラム26:安政東海・南海地震(1854):太平洋沿岸
- コラム30:寛政西津軽地震(1793):追良瀬川上流
- コラム31:天正地震(1586):帰雲山崩れ等
- コラム32・33:濃尾地震(1891):地震直撃と震後降雨
- コラム37-40:関東地震(1923):地震直撃と震後降雨
- コラム45:長野県西部地震(1984):御岳崩れ等
- コラム49:五畿七道地震(887):富士川・ドンドコ沢
- コラム55・56:新潟県中越地震(2004):東竹沢・寺野

§3. 宝永地震(1707):仁淀川の天然ダム(コラム12)

宝永四年十月四日(1707.10.4)の宝永南海・東南海地震で、四国各地で土砂災害が多発した。『谷稜記』によれば、「…大地震起り、山穿て水を漲し、川を埋りて丘となる。國中の官舎悉く轉倒す。迹んとすれども眩て壓に打れ、或は頓絶の者多し。又は幽岑寒谷の民は巖石の為に死傷するもの若干也。」

史料調査と現地調査によれば、仁淀川中流の越知町の舞ヶ鼻で天然ダムが形成された。湛水範囲の上端標高61m付近には5か所に石碑が建立され、



図1 仁淀川中流右岸の崩壊と天然ダムの湛水範囲「南無大師扁照金剛 宝永七(尾名川村惣中)」と記されている。地元では「石碑より下に家を建てるな」という言い伝えが残っており、標高61mより下には人家がなく、水田となっている。

§4. 宝永地震(1707):地震と震後降雨(コラム13)

高知県名半利から野根を通る野根山街道には加奈木崩れ(宝永地震で発生)、五大の崩れなどの大崩壊地が存在する。宝永地震によって、高知県東洋町名留川で大規模崩壊が起こり、半年後の豪雨で土石流となって、下流の成川村を埋没した。現在の名留川集落はその後に再建された村である。

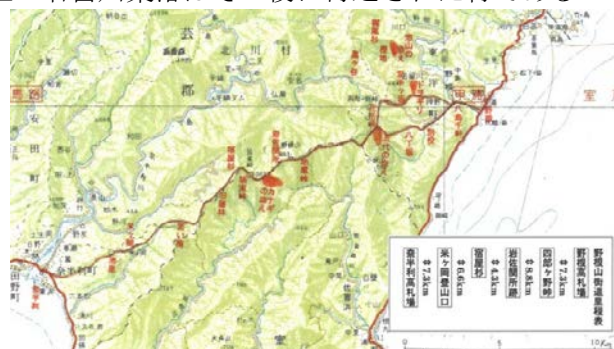


図2 野根山街道と主な大規模崩壊(井上, 2015)



図3 池山寺の大規模崩壊と土石流(井上, 2015)